

ジョージア政治・経済 主な出来事

【2017年1月9日～2017年1月15日】

[当地報道をもとに作成]

平成28年1月23日

在ジョージア大使館

1. アブハジア・南オセチア

【アブハジア】

▼露軍による遺跡の破壊(11日)

・1月3日、アブハジアに駐留する露軍がグルリプシ地区ツェベルダでの軍事演習場の整備の際に8～9世紀および中世後期の住居、墓、教会の遺構および20世紀中ごろのポーランド人墓地を破壊したと報じられた。ジョージア外務省は非難声明を発表。

▼「アブハジア共和国外相」のニカラグア訪問(11日)

・コヴェ「アブハジア共和国外相」率いる「アブハジア共和国」代表団が、マナグアで行なわれたオルテガ・ニカラグア大統領の就任式に出席。「アブハジア共和国」代表団はニカラグアの省庁および大統領府の代表者らと会談し、アブハジア・ニカラグア間の協力の更なる発展について議論。

▼アブハジアの電力不足の可能性(11日)

・メボニア・エングリ水力発電所長が、アブハジアにおける電力消費の削減、あるいは、アブハジアの主要な電力供給源であるエングリ水力発電所以外の追加的な電力供給源の確保が実現しなかつた場合、アブハジアでは2月後半以降電力の供給が止まる可能性があると発言。

・カラゼ・エネルギー相は、昨年冬にアブハジアでの電力不足を補うためロシアから電力を輸入したジョージア政府の決定に言及しつつ、「去年と同様に電力供給について問題は起こらないだろう」と述べた。

・エングリ水力発電所のダムはジョージア政府支配地域にあるが、5つの発電機はアブハジア側のガリ地区にある。ジョージア政府とアブハジア側との長期的な非公式合意により、発電される電力の40%がアブハジア側に、60%がジョージア政府支配地域に送られている。

【南オセチア】

▼「南オセチア共和国軍」の露軍との統合(12日)

・ティビロフ「南オセチア共和国大統領」は、2015年3月に署名されたロシアとの「同盟と統合に関する協定」のなかで示されていた「南オセチア共和国軍」の一部の部隊の露軍との統合に関し、南オセチア側の作業は完了したと発言。

2. 外政

▼イスラエル大統領のジョージア訪問(9日～10日)

・リヴィン・イスラエル大統領がジョージアを訪問。マルグヴェラシヴィリ大統領、クヴィリカシヴィリ首相ら

と会談。

・8日にイスラエルで起きたテロ事件について、「マ」大統領および「ク」首相が連帯を表明。「ク」首相との会談では、経済協力の発展、貿易の動き、ジョージアへのイスラエル企業の投資、イスラエル人観光客の増加などについて議論した。政府間経済委員会の活動を評価。

▼外相のトルコ訪問(10日)

・ジャネリゼ外相がトルコを訪問し、トルコのエルドアン大統領、ユルドゥルム首相、チャヴショール外相、アイドゥン国会副議長らと会談。マルタ、チュニジア、フィンランドの外相とともにトルコの大統領会議に出席。

・「チャ」トルコ外相との会談では政治、貿易、経済、エネルギー、物流、人道の分野での二国間協力について幅広く議論。バクー・トビリシ・カルス鉄道の迅速な運用開始およびエネルギー南回廊プロジェクトの実現の重要性が強調された。

▼外相のイラン訪問(11日)

・ラフサンジャニ元イラン大統領の死去に関連した式典への出席のためジャネリゼ外相がイランを訪問。「ジャ」外相はザリフ・イラン外相と会談。会談で両外相は、地域的な物流・エネルギープロジェクトに特に焦点を当てつつ、二国間関係および今後の協力の展望について議論した。

▼米国務長官のジョージアへの立ち寄り(12日)

・ケリー米国務長官の乗った航空機が一時的にトビリシ国際空港に着陸。「ケ」米国務長官はザルカリアニ第一外務次官と会談し、ジョージアと米国の戦略的パートナー関係について議論した。「ケ」米国務長官は「ケ」米国務長官は民主制、政治、経済の発展の道のりにおけるジョージアの目覚しい前進を高く評価、地域におけるジョージアの重要な役割を強調。

▼外相のリトアニア訪問(13日)

・ジャネリゼ外相がリトアニアを訪問。リトアニアのプランツキエティス国会議長、スクヴェルネリス首相、リンケヴィチウス外相らと会談した。「リ」リトアニア外相との会談では、二国間および多国間の枠組みでの協力およびジョージアのEU・NATO加盟について議論。ジョージアに対する査証自由化の手続きの迅速な完了の重要性が強調された。

▼LIBEがジョージアに対する査証自由化を承認(12日)

・欧州議会の市民自由・司法・内務委員会(LIBE)が、ジョージアに対する査証自由化をめぐる欧州議会とEU理事会の2016年12月13日の合意を承認。ジョージア外

務省は承認を歓迎する声明を発表した。

- ・今後、合意は2月に行なわれる予定の欧洲議会の本会議で承認されねばならない。

3. 内 政

▼統一国民運動の分裂(12日)

・野党統一国民運動(UNM)のウグラヴァ前トビリシ市長、ボケリア議員(元国家安全保障会議書記)、バクラゼ議員(元国会議長)らが会見を開き、UNMからの離党を発表。UNMの27名の議員のうち20名が離党した。

・「バ」議員は、「我々はイヴァニシヴィリ(元首相)の支配に対して(UNMと)同盟を続けるが、新たな政治的闘争を始める」と述べた。「ウ」前トビリシ市長は、「党的分裂の責任は、党をつくった人物にある」と述べ、サカシヴィリ前大統領を批判。

・13日、UNMを離れた議員はUNMの2つの会派「統一国民運動」と「統一国民運動・ジョージアの前進のために」をそれぞれ「欧洲ジョージア」「統一国民運動・ジョージアの前進のために」に改称。会派「欧洲ジョージア」の代表にはUNMに残ったメリア議員に代わってラティアニ議員が就任した。

4. 経 済

▼露ガスプロムとの協議の妥結(11日)

・ロシアからジョージアを経由してアルメニアへ送られる天然ガスの通過料の支払いに関するジョージア政府と露ガスプロムとの交渉が妥結。これまででは通過する天然ガスの10%をジョージア側が通過料として受け取っていたが、ガスプロムが求めている金銭での通過料の支払いに変更される。11日の政府閣議で新しい条件に基づく契約の締結が決定された。

・2014年にジョージアがロシアから受け取った267.7百万m³の天然ガスのうち、206.1百万m³が通過料であった。

・カラゼ・エネルギー相によれば、契約期間は2年間。最初の1年間は通過料の一部が従来通り天然ガスによって支払われるが、2年目には全ての通過料が金銭で支払われる。「カ」エネルギー相は通過料の具体的な金額は明らかにしなかった。

▼世界銀行によるジョージアの経済成長予測(11日)

・世界銀行は最新のリポートで2017年のジョージアの経済成長率を5.2%と予測。2018年には5.3%に上昇するが、その後は低下を見込む。

▼アンブロラウリ空港新ターミナルの完成(14日)

・アンブロラウリ空港の新たなターミナルの完成式典にクヴィリカシヴィリ首相、ガハリア経済・持続的発展相らが出席。